

1968.12.11

「交通事故の授業」

新卒・向山洋一の研究授業

教育

新宝島



(向山学級3年4組の子どもたち 1968)

12月特典

向山洋一教育資料

No.25

2025
DEC.

本資料について

1968年12月11日、新卒教師であった向山洋一氏は、社会科の研究授業を行った。

交通事故の授業

である。

今月は、この授業の関連資料と文字起こし、授業音声をお届けする。

1. 京浜教育サークルの発足

新卒一年目の冬。

向山氏は、大田区に同じ新卒教師として赴任した石黒修氏、井内幹雄氏と共に、小さな学習会を立ち上げた。

「京浜教育サークル」である。

その第1回目の学習会に、向山氏は自らテープ起こしをした社会科授業の記録を持ち込んだ。36～43ページに掲載されている授業記録である。

向山氏が新任教師であった1960年代から1970年代にかけて、日本は高度経済成長期のただ中であつた。

自動車の急速な普及とインフラ整備の遅れは「交通戦争」と呼ばれる程の深刻な社会問題を生み出していた。この授業には、こうした時代背景が色濃く反映されている。

2. 向山氏による自己分析

向山氏はこの授業について、「今、読みなおすと、いろいろと欠点が目につく」と率直に振り返り、次の4点を挙げている。

1. 授業の流れが教師の誘導型になっている。
2. 子どもたちの「はい」という声が気にかかる。
3. 「なぜ交通事故が起きると思いますか」という、とらえどころのない問いをしている。
4. 後半の流れが強引である。

だが同時に、向山氏は「一つだけ、まんざらでもない点がある」と自己評価もしている。

それは、「人間の不注意によって交通事故が起こるのだ」という子どもたちの意見と正面から対決したことである。

向山氏はこの授業を「20点程度」と述べている。皆さんなら何点をつけるであろうか。

3. 本冊子収録の向山実物資料

本冊子には、次の資料が収録されている。

- (1)向山洋一「視聴覚教育研究協議会への中間報告」大森第四小学校、1968年、向山実物資料 A74-03-01
- (2)向山洋一『交通事故の授業（テープ起こし）』東京教育技術研究所、向山実物資料 A56-13-01
- (3)向山洋一『3年の学級経営（原稿）』1985年、向山実物資料 A88(2)-11-01、他

解説は、桜木泰自氏である。

特典音声はこちら



<https://vimeo.com/1125779556/e869fae295>

視聴覚教育研究協議会への中間報告 ＝ 試 論 ＝

序にかえて

- I 主題設定の理由
- II 研究の視座
- III 研究の方法
- IV 研究の過程
- V 研究結果の概括
- VI 反省と今後の課題

研究主題(仮)

統計図表と写真スライドが話し
合い活動に与える影響について。

(注) 社会科学研究部 仮主題(仮)……社会科学習における話し
合い活動に効果的にするための視聴覚的教育方法の研究。

1968・11 11 大岡山社会科学研究部 向山洋一

序にかえて

私の研究授業実施が決まったのは、6日前であった。

このことは、教材研究をする上でも、私のささやかな実践をまとめる上でも、極めて大きな障害となった。

わずか数日で、実践記録を整理できるものではなく、意見を聞き討論をする時間もないまま、この報告を作成するはめになった。それ故、科学性のうすい強断が多いことをまず「おわび」しておきたい。

しかし、あえて私が、ここに試論を報告するのは、私も大皿の一員として、現在の視聴数教育研究の流れが、更にゆたかになる事を願うからである。

この報告が、最近の職員会議、研究協議会で議論的となっている、研究方法、研究目的、研究主題の討論の一つの素材となりうるなら幸いである。

教育実践をふまえたきびしい批判と反批判こそ、教育の質を更に高くするものである事を私は信じる。

そして又、そうした努力こそ私たちが子どもに対して負うべき一つの任務と考える。

それ故にこそ、この私見に対するかしくない批判を

ゆたかに教育実践、研究と、たくましく教師集団の形成へと私も努力していきたいと思う。

1 主題設定の理由

(1) 最近の教育界の注目すべき動向の一つは、哲学、心理学にきとをおいた認識論への接近だろう。それは、教育現場から無数に生みだされる教育研究がきびしい科学性を要求される証拠だと考えられる。

特にそれは、子どもの認識過程、思考過程の解明にあたたかな光を投げかけなくてはならない盲点だとも考えられる。

最近脚光をあびるもろもろの教育学者¹⁾の問題提起は伝統的なオコノの「教授過程」をのりこえる時代が近づいたことを告げているのだ。

(2) 今日、視聴覚教育を考える場合でも、その基礎となる認識理論と考えられている「感情的認識から理性的認識へ」²⁾という考え方が関連されて考えられなければならない。

この認識過程が成立するための教育的諸条件は何なのか、視聴覚教育はどのような役割を果たすのか、明らかにされる必要があるだろう。

いわば、テールが主張する「経験の円錐体」³⁾の、フルーナーが主張する直観的思考の重視⁴⁾の延長の中にこそ、我々現場教師が研究していかなければならない問題があると考えられる。

(3) 認識過程の契機を成り立たせる条件は何か。その中で視聴覚教材、方法がいかなる役割を果たすのか。これこそが私のねらう中心的研究内容であり、そして又、そうしたことがさきののべた課題であると考えられる。

(4) 教授様式にはさまざまな型があり⁵⁾、それぞれ長所、短所をもっている。しかし私は社会科学界の中において、認識の転換をもたらす教授様式は討議(話し合い)の状態が最も望ましいと考える。それぞれのこともが、それぞれの考えをぶつけあう場によって、それぞれ別の道を通りながら一つの(或はいくつかの)結論に到達できる教授様式は他にはあるまい。私はあの有名な「不の字入手紙(手紙)」⁶⁾に反対する。どうして者えられる子。

どもたちは教師のいうことは何でもうけ入れるような自主性のない子どもになりがちだからである。

それぞれの子どもがそれぞれの概念を出発点とし、認識の転換を全体の子どもが(学級集団として)得るためには、討議の状態こそ(問答ではない)作り出すべきであり、そうした討議(話し合い)の状態が生じた場合は目標の半分を達成したと見て過言ではあるまい。

かつて Walter pater.(仏)が“あらゆる芸術は常に音楽の状態にほろりとあこがれる”とのべたが“あらゆる学習は常に討議の状態にほろりとあこがれる”といいかえどもあながちまちがいはほろらうと思う。

⑤ 私は以上にのべた(1)~(4)の理由をもって自らの研究(仮)主題を認定した。

- ① 1) プルーナー 「子どもの議論発展」 明治図書
ワロン 「認識過程の心理学」 “
「子どもの思考の起源」 “

ピアジェ

2) 視聴覚教育事典。 視聴覚部発行資料

3) 視聴覚部発行資料

4) 前掲

5) 細谷俊夫「教育方法」 岩波全書

E) 藤村(文芸者)大11年。
俗人のため「よい教師は少くない。生徒に教えたがる教師は多いけれど、生徒と1対1に学んでいこうとするような教師は少ない。」

II 研究の視座

(1) 感性的認識から理性的認識の各過程に対する視覚的資料の影響のしかたは、大別して二通りあると考えられる。

一は主として感性的認識の段階で影響を与えるものであり、二は感性的認識に始まって理性的認識にまで影響を与えるものである。

それらは、それぞれに特性をもっているものであり、どのような方法がよいかは決められまい。

それに、それらの資料は一、二に厳密に分れているものではなく、多かれ少かれその両方をお互い兼ねて持っている。

(2) それらを「真の資料としての価値を發揮させるためには、学習効果を高める教材として再構成することが必要^り」であり、そのことはひとえに教師の手にかかってくるのである。

メディアとしての資料は教師・生徒が学習する上での手段なのであり、その意味で資料はメディア以上の価値をもっていないのである。

(3) しかし、視覚的教育方法の発展(科学の発展)と共に、ここに重要な変化がもたらされた。

つまり、テレビ、映画等という、製作者が一定の意図をくみ入れた教育方法の本現である。

それはメディアとしてのかたをせば、資料としての限界をこえ、(資料+教師)の役割りを果たすのである。

この(資料+教師)という役割りにこそテレビがもつ欠陥があると私は考えるのである。

(4) テレビにおいては、理性的認識への発展過程にまで製作者の意図が及ぶ

れている。

そしてそれは、子どもの思考過程に当然大きな影響を与える。

視覚的認識を規制してしまうのである。

私が先日、林檎級で試みた授業でもけんちまにその事を示した。

「陸の移りかわり」の映画をみせ「江戸時代のたびで困ったことは何人だったろう。映画のだけじゃなく考えられるなぎりいっこごらん」といったところ“川どめ、せき所、橋が壊れ、山ぞく”などの映画に出たものはすぐ答えたが、それ以上の答はついになかったのである。“他にはもうありませんか。”という、しつこいぐらいの質問にも“ない。”という返事であった。

当然考えられる。“病気のとき。”“日数がかかる。”“雨の日。”“ほそく。”などの点は一つも出ず、その気配さえなかったのである。

(5) そして又、テレビ等が子どもたち²⁾に接近する方向へとすすみ、子どもの疑問を学習過程にありこもうとするのは、害が生じるのではないかと考える。

それは、学習のポイントとなる疑問が、子どもたちの最大公約数的なものにならざるをえなからである。

我々が実際に授業をする時、少数意見、少数の疑問は極めて大切な役割をするときが多い。

しかし、テレビにあてはそれらのものが、しゃべりさへしてしまうのである。

それのみが、テレビにあらわれる疑問。テレビが終わったときには解決してしまう(ように見える)事が多い。こうした事が、いまからているという事は明らかであらう。

(6) それ故、テレビを見せる授業は、その内容を整理するという方向は、
 かわざるをえない欠陥を持っていると思う。

それは又、討議(話し合い)の方法は極めてできにくく、ほとんどが問答と
 なってしまっている。

大田区教育委員会発行の「昭和40年度 研究紀要」に、大田の山岡先生
 の「新学習に放送教材をどのように利用したらよいか」という研究発表
 がのっている。

その中に於て、山岡先生は放送教材を利用した学習指導法の検討として

- ① 放送教材を単元学習の展開の中でおきり
 位置づけておき、授業の流れの中で視聴し
 て話し合いの素材にする方法
- ② 視聴した内容をもとにして、同じ方法で自
 分たちの地域の様子を調べようとする意欲
 や態度をきたせ、つぎの学習への問題を発
 見させていく方法
- ③ 他の地域の人々の生活をテレビで視聴する
 ことよって、その土地の特色を知らせる
 方法

をあげていられる。

たしかに、②でいうつぎへの学習への問題を発見させていく方法³⁾、③でい
 う、知らせる方法はあると思う。

しかし、①の学習指導法があるとは、私には考えられない。ましてや、話
 し合いの素材にする方法というのは、まったく考えられない。

テレビのあとの授業はほとんど討議(話し合い)ではなく、問答による方
 法で視聴内容の整理へ向かわざるを得ない³⁾と考えるからである。

- (7) 制作者の意図が、認識過程にまで及んだテレビの問題をぬきにして、
その研究はありえない。

資料 + 教師

ということがもつ問題をさけて通ることは、その研究の本筋ではない。
しかし、残念なことに、私が調べられる限りにおいて調べた研究は、お
のこをさけて通っているのである。

そして、いろいろ研究発表したその中味は、「テレビは、有効なもの
という前提にたつて、事前、事後の指導、その時間配分等状況からい
るのである。

- (8) 以上にのべた意味で、私は社会科学習におけるテレビの評価は、か
定の存である。(もちろん、これに対する答えは今後の研究に待つべきで
か)

特に、教師の教材観、教育目標が殺されてしまうという点で否定的存
る。

それ故、私は自作教材を中心として研究しながら、客観的存
反資料の
を研究主題にぞつて進めたいと考える。

もちろん、私は自らの考えに固執するつもりは毛頭存
い。それをくつがえ
う存教育実践に接すれば、考えは変えるつもりである。

(注)

- 1) 大田区教育委員会「昭和40年度 研究紀要」
- 2) 視聴覚研究部発行資料「小出報告」
- 3) 戸島学報ぞの、取組を見せ、疑問点をかさせつぎの学習へ
の過程として方法

Ⅲ 研究方法

(1) 実態の把握

- ・一学期の社会科学習に於て、'工場しらべ'を行った。各班の発表(口答)→話し合いという指導経過をたどった。

この学習において、社会科は自分たちのまわりのことを、自分たちで調べ、理解するという態度がやしほわれたと考える。

二学期の社会科学習の"各地から集まるやしほくたもの"の学習において、八百屋さんからラベル等を集めて、どこからはこぼれてくるか調べた。

全員がラベルを集め、八百屋さんの話しをつたえ、一つの班がそれをもぎ、う紙にはりつけて、発表した。

この学習において、調べてきたことを発表するという学習方法を知ったと考える。

- ・算数の学習において、棒グラフの条件、書きか、数量的よみかを学んだ。
- ・以上の点から、学習問題を自分たちで調べ、発表するという事が、ある程度分かっていたと考えられる。

しかし、よりよい発表の方法、よりよいグラフ、表の作成、グラフ表の中味のよみか、資料をメディアとしての話し合いは、全然学習されていないため、それらのことを非常に大きな課題としてあると考えられる。

(2) 一般的実態の把握

① 国立教育研究所収要集14集

一学期の部面における学習指導診断の問題点よりの考察一

- ア. ニつのグラフを比較して見る力があたる。
- イ. 学習内容がよく理解されていながらのにグラフだけを読みとるうとするために問題: 理が十分にできない。

② 昭和40年度社会科学力調査の分析 東京都教育委員会の報告書

・地図・グラフ・年表等の具体的な資料を材料に即して読み取る能力が不十分である。

③ 昭和40年度社会科学力調査の分析 大田区教育委員会の報告書

・地図とグラフの両方から地域社会の特色を読み取り、問題で、地図とグラフを関連づけ考える能力が十分でない。

(3) 以上のような実態から「安全と暮らし」の単元全体をグループ学習にすることを求めた。

つまり、自分たちで調べ発表し、その際必ずグラフ又は表を作成し、そのことにより学習がどのように展開されるかを調べたのである。

話し合い活動は「発表に対してしつもんをしなさい」とのみ指導し、はじめから深く教えるのをさけた。

(4) その結果を下記のような社会科研究部で作成した記録カードにとり、そのカードと隣組 部内研究授業をやり、この二つをもとに教科部会で検討をかさねていくことにした。

視察研究社会科部記録カード		0	学習内容	資料(含袖)	留意点
月	日()				
単元名		10			
目標		20			
使用教材		30			
自評		40			
		45			

TV 研究の過程

10月 24日 教科部会

- ・ 社会科テーマ(仮) 設定
 - 社会科学習における話し合い活動を効果的にするための視覚的教育方法の研究 —
- ・ 各自 研究テーマ(仮) 設定
 - 吉沼……写真、スライドが話し合い活動に与える
えいさうについて。
 - 原田……映画、スライドが話し合い活動に与える。
えいさうについて。
 - 三橋……OHP自作教材による話し合い活動への、
効果的取用方法について。
 - 向山……統計図表と写真スライドが話し合い活動
にあてるえいさうについて。

11月 13日 向山孝祐先生授業…… 向山

” 教科部会

- ①討論
- ②記録用紙作成…… 向山
- ③次向山先生授業…… 原田

12月 7日 原田孝祐先生授業…… 原田

” 林孝祐先生授業…… 向山

「安全なくらし」向山学校 学習過程

- ① 私たちの大田区「安全なくらし」通説
- ② 各班(8班)ごとの学習課題の決定
- ③ 各班ごと学習方法の話し合いと決定

＜ 調 査 ＞

- ④ 調査をもとにした話し合いと発表内容の決定

＜ 再 調 査 (班におよ) ＞

⑤ グラフ 表の作成	作成図表の数
⑥ ゆうびん局のしごと	2
⑦ おそろしい火事	2
⑧ 火事を早くけすために	3
⑨ 乙役所のしごと	2
⑩ ぜんぜん病を治すために	5
⑪ おそび場のしらべ	2
⑫ 寒い場所にするために	3
⑬ 交通事故を治すために	3

V 研究結果の概括

- (1) 先にのべた方法で授業をした結果 非常に多くの児童の発言がえられた。
 発言をする児童の数は、全体を通して 20名〜29名(学級児童数32名)を、
 つねに保っていた。
 そのため、大半の授業は、45分の中40分ぐらゐを 児童同士の意見の交換と
 いうことになつた。
- (2) はじめのころ(2回)の発言は、図、表を中心とするものではなく 総表児童
 の発言を中心とするものが多かった。
 又、図、表に心かいても、かいてある絵などの発言をし、授業の流れから湧いてし
 まうものが目立った。
 更に、統計的資料にして目がかかれてあることの意味をたしかめることがほとんどで
 あり、その意味するところをつく発言はほとんど見られなかった。
 ただし、一、二の児童は、ゆうびん局の仕事が終わる時間を「まだ口ごとはわかる
 時間がちがうんじゃないですか」というような、一定の物的でない発言もしてい
 た。
- (3) 3回目から5回目ごろにかけては、前のような発言も多く見られたが、出張所
 の仕事で、「子ども児童室の係りの人が休んだらどうするんですか」「それだけの机
 のかまじや足りないんじゃないですか」というような、分析的な思考が見られて
 きた。
- (4) 6回目から7回目ごろにかけて、分析的な発言が多く見られるようになり、二
 つのグラフを比較して矛盾を追求するようになることが行われ始めた。
 このころになると、絵のまちがいをいうような質問は、「つまり正しいことをいうな
 と、クラス全体からやじられるようになった。
- (5) 又、図表 そのものの作成も、初期のころの絵が多かったり、字が多かった。

りあるものが少くはり、客観性をもった、見やすいものが多くつくられるように作った。

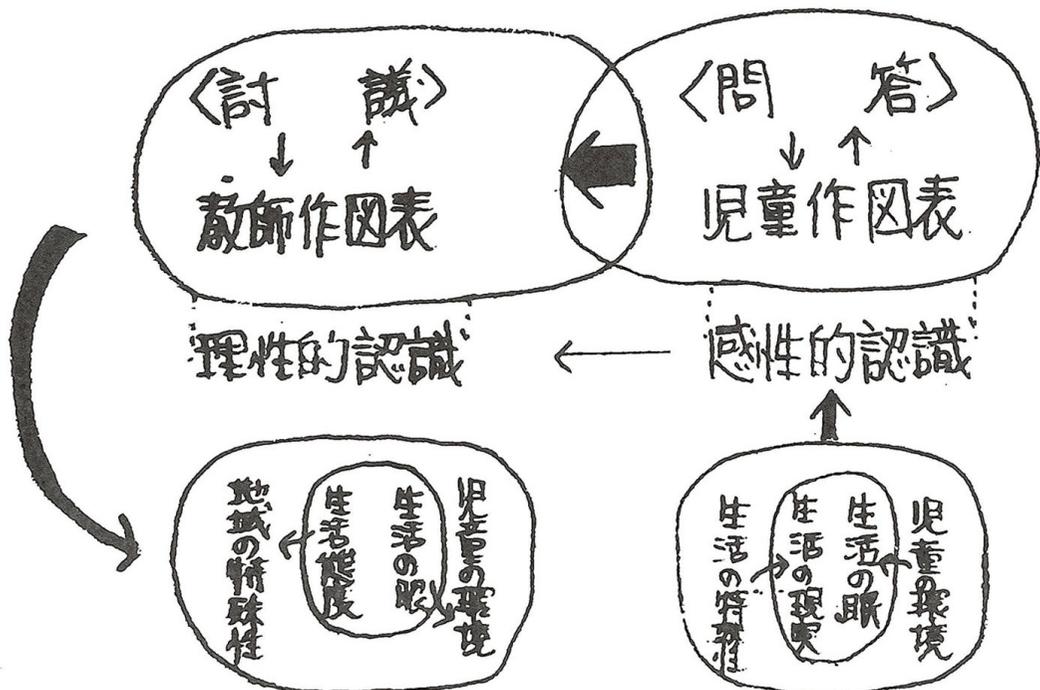
(6) 以上のことから 図表がこともた5の発言にかんりのえいきょう、(をろん効果という意味で) を与えると考えられる。

(7) 私がここで、発言、発表ということばばかりをつかい、話し合いということばを使わなかったのは、子ども同士の応答ではついに話し合いの状態がえられなかったからである。

代わりにのころになると、その萌芽的な点も見られたが、いまだその点がかういふものが実践されていはい。

(8) 11月13日の教科部会では、子どもの発表のあと教師が自作図表を提示すべきであるという批判をされたが、私が授業に対して手をぬいて1年が一つの重大な欠陥となっていたと反省したしだいである。

(9) 以上のことから、認識過程に対する教材のあり方は(児童の研究発表による発表で) 次のような表にあらわせるのはいいかと考える。



VI 反省と今後の課題

- (1) 何よりも研究が、主題へむかってストレートにすすまないで、グループ発表というやっかいなしろものの上にのせてしまったことを反省しなくてはならない。
- (2) しかし、今後の研究は一応のせたレールの上でやっていきたいと考える。とくに、教師自身の作成した図表が話し合い活動に効果をおげるのかどうか、それは又、感性的認識への転換をもたらす資料となるものなのかどうかを研究していきたい。
- そしてこそ、前ページにかいた図は一応の実践にもとずいた図となることができるのである。今のところ前ページの図は半身不齊である。右側の部分は一応の実践結果ではあるが左側の方は推論だからである。
- (3) テレビについての私の考えは、語りがあるかもしれないのだが、「いすゞ(すーっと矢)研究していかねばならないと考える。
- 大皿の中でどなたかがやって下されば、詳しいとはあと思っています。
- (4) とまれ、私はここまでのべてきたように考える。こんごも研究にあたっていきたいと思っています。

社会科学習指導案

1968. 11. 11

1. 単元名 安全なくらし
2. 実施学年 大田区大森第四小学校3年4組
3. 指導者 教諭 向山 洋一
4. 目標 わたしたちの生活のまわりでおきる交通事故、火事、大水、伝染病などの災害は、個人の力だけでふせききれぬものではなく、組織的な活動が必要であることを考え、調査させ、大田区における保全問題、保健問題についてのものの見方を育て、大田区の区民としての自覚を深める。
5. 指導過程 略
6. 本時の指導
 - (1) 小単元計画
 - ①おそろしい交通事故 …………… 1時間
 - ②交通心とはなぜおきるのだろう。…… 1時間(本時)
 - ③どうしたら交通事故はふせげるか。… 1時間
 - (2) 学習問題
交通事故はふせぎおきるのか。(次時への発展過程として) 交通事故をふせぐにはどうしたらよいか。
 - (3) 目標
児童が現にみている交通事故に対する見方をさぐり、その交通事故観に対して、児童自身に、自分の考えに矛盾があることを感じるように事態に迫らせ、それを契機として思考を発展さ

せ、交通事故発生の原因が個人的な不注意ばかりではなく、社会的要因によることも多いことに気づかせこいく。

(4) 展開

指導段階	分節のねらい	学習活動と学習内容	教材名	教材利用上の留意点
導入 (2分)	本時の学習目標を確認させる。		①大森管内交通事故の写真	
展開 (15分)	交通事故の概要を把握させる。	交通事故にからまる諸問題について考え発表する。(グループ発表)	②交通事故の原因 ③道路別発生数 ④年度別比較	子供制作
10分 13分	交通事故の原因が個人的不注意にはかりでなく、社会的要因が多い事を明確にさせる。	交通事故はなぜあきるのかを考え、話しあう。 ・個人的不注意 ・社会的要因	⑤交通事故をなくす為の子供のポスター(前時作) ⑥写真(総合前) ⑦スライド(三原画)等 ⑧主要地点交通事故表 ⑨自動車数の増加グラフ	
終末 (5分)	交通事故をなくす方向を意識させる。	交通事故をなくす(へらす)方法について考え話しあう。 ・個人的方法 ・社会的な方法	⑩写真(先道橋、高速道路、ガードレール) ⑪スライド(高速道路、環八、モルル)	社会的な方法の方向へとすすめていきたい。

7. 評価 交通事故のふりかえり ・ 感想文

交通事故の授業（授業者：新卒教師 向山洋一）

〔記号の説明〕 M：向山洋一氏 C：子ども 8：8班の子ども

- | | | | | |
|--------------------------------------------|---|---|--------------------------------------------------|---|
| ★ | ★ | ★ | ★ | ★ |
| C全：（ガヤガヤと騒がしい） | | | C7： 死んでるんだよ先生。 | |
| M1： はい、こちらを向きます。 | | | C8： あっ、かっこいい。 | |
| C全：（ガヤガヤと騒がしい） | | | M8： はい、見た人。 | |
| M2： はい、こちらを向く——う。こちらを向く——う。こちらを向く——う。 | | | C全： は——い。 | |
| C全：（ガヤガヤと騒がしい） | | | M9： はい、どうだった。 | |
| C1： 片岡先生だ。 | | | C9： 先生のしぬとこ。 | |
| M3： こちらを向く——う。 | | | C全：（ワイワイ、ガヤガヤ）かっこいい。かっこ悪い……………。 | |
| C全：（おしゃべりをしている） | | | M10： はい、はい、はい、それじゃ、やめ——。これは何の事故ですか。 | |
| C2： あっ、隠れちゃったぜ。 | | | C全： は——い。 | |
| M4： はい、こちらを向きます。はい、こちらを向きなさい。 | | | C10： うんとねえ。交通事故です。 | |
| C全：（おしゃべりをしている） | | | M11： 交通事故ですねえ。 | |
| M5： こちらを向きなさい。 | | | C全：（ガヤガヤ……）交通事故…（ガヤガヤ） | |
| C全：（おしゃべりをしている） | | | M12： はい、それでは今日はね、交通事故のことについてお勉強します。今日の発表は8班でしたね。 | |
| M6： さあ、勉強をはじめます。 | | | C全： は——い。 | |
| C全：（おしゃべりをしている） | | | M13： じゃ、では8班。はい、はじめてください。 | |
| C3： 西郷先生だ。 | | | C全： がんばれ、かっこいい、（ガヤガヤ……） | |
| M7： はい、あすここに写真をはっておいただしょ。すいません、それあげてくれますか。 | | | M14： はい、静かにしましょう。はい。 | |
| C5： えっ、やったよなあ。 | | | 8班： これから8班の発表をします。 | |
| C6： 死んでるんだよ。 | | | | |

- C全： 見えないよ。～じゃま。～じゃま、じゃま～上から見ろよ、めんどくさいから。～おまえの頭がじゃま。～(ガヤガヤ……)
- 8①： 酔っぱらい運転が21人で、斜め横断が2人で、それで、車、直前、直後横断が49人で、反対通行が7人です。車、車道、車道のとび出しが13で、左側通行、
- C11： すいません。もう一度はっきり言ってください。
- 8①： 左側通行横断は7人です。
- C11： そこじゃなくて、もっと前。
- 8①： 交差点の横断歩道外の横断は9人です。お酒を飲んで歩く人が6人です。自転車に乗って事故になった人は42人。高速道路の事故は29。無免許運転は103人。その他、センターライン オーバーした人も103人で、スピード違反、荷物の詰めすぎも、103人です。信号無視した人、21人で、幼稚園で死んだ人が一人で、
- C12： えーっ、幼稚園で。
- 8②： 駐車違反をした人が254人で、横断歩道を通らないで、9人です。
- 8②： ～の交通事故。第一京浜は、229。
- C13： 見えません。
- 8②： 環状7号線は92。池上通りは78。羽田道路は75。～通りは32。中央通りは26。これは、えーっと。数字がないのでぬかして、三原通りは13。その他の通りは380です。
- C14： よってください。
- 8③： けがの人の数。今年、
- C15： 見えません。青山の方、見えません。
- 8③： けが人の数。今年1月から～。
- C16： 青山君の方、見えない。
- 8③： 1,018人です。
- C17： もっと大きく。
- 8③： 東京……。
- C18： もっと大きく。
- 8③： 東——。
- C19： もっと大きく。
- 8③： 東——。
- C20： もっと大きく。
- C21： もっと、もっと、大きく。
- 8③： 東京都内の全体のけが人。9万4千26人。大田区で一番事故が多い所～町。昼間事故が多い。乗用車の事故が多い。大森で死んだ人。小学生で今年7人。
- 8④： 昭和41年、昭和42年度交通事故…
- C22： どったの。
- C23： どったの。
- 8④： 事故、原因で、
- C24： 読めないんですか。
- C25： 交通事故の原因を。
- C26： 交通事故のだって、
- C27： はやく。
- C28： 交通事故の原因
- C29： 交通事故の
- 8④： 事故の、わからな～い。
- C30： ほう、教えられよ。
- C31： 教えて、

- C 32: 交通事故の
8④: 先生、ちょっと考えとく。
- C 33: 交通事故原因。
8④: 種別、年度別。
- C 34: なんだ。
C 35: 死亡。
8④: 死亡。
C 36: 重傷。
8④: 重傷。
- C 37: またあ。
C 全: (ガヤガヤ)
C 38: 言いなさいよ。
C 全: (ガヤガヤ)
- M 15: 発表できなかつたらそこでやめなさい。次が長いから。
C 39: また、～ きいてない。
C 40: こっちから、すき間からみえるもん。
M 17: はい、時間がたっちゃいますよ。発表できなければ、そこで終わりにしなさい。
C 41: 刻々と時間が迫ってきます。
C 42: バクダンが～ するでしょうか。
M 18: 班が相談しなさい。どうするんですか。
C 43: ちょっと待ってくださいって言えばいいんだよ。
8④: これをぬかして、え～っと、昭和41年から、この昭和41年、8件、重傷、20件、84名、～ 610件、744名、122件、合計、820件、昭和42年、
- 9件、10名、94件、99名、771件、992名、75件、合計 949件。質問はありませんか。
- C 全: はい、はい～
8④: 須山君。
C 44: 何、下の何でしょう?
8④: これ?
C 44: そう。そのね、下、下、上から3番目のね、昼間、何ですか?
8④: ええと、大田区で一番、
C 44: 3番目、その下、昼間何ですか?
C 45: ～ 見えないよ。
C 46: それはね、
C 47: 4番目、
C 48: やだ、見えない。
8④: 1、2、お昼が一番多い。
C 49: お昼じゃないよ。
C 全: は～い。
C 50: 見えない。
C 51: 見えない。
C 52: どうして昭和、昭和41年より昭和42年のほうが多いんですか?
8④: え～と、調べてきませんでした。
C 全: は～い、は～い。
C 53: ～のは、何年に調べたんですか? こっち、
8④: これ? どこ?
C 53: 何年に調べたのですか?
8④: それは、ここに書いてあります。

- C全： は〜い。
え〜と、豊田さん。
- C全： （笑う）
- C54： 誰かと思った。
- 8④： 原田さん。
- C55： はい。あのね、全員というのでね、下から2番目のね、ちゆうしやいはん、
- C56： 駐車違反をした人。
- C55： 駐車違反をした人 254人はどうしたんですか？
- C57： ああ、言われちゃった。
- 8④ え〜とね、駐車違反、え〜と、駐車、ぼくは、こう思います。え〜と駐車、違反、
- C58： 駐車じゃないよ。
- 8④： 駐車禁止地区で、
- C58： 駐車じゃないよ。
- 8④： 駐車禁止っていう、う〜んと、立て札が、え〜と書いてない所があるので、そこに駐車した人がいるので、だから、え〜と、多いと思います。
- C全： は〜い。は〜い。は〜い。
- 8④： 野添さん。
- C59： ちえっ。
- C60： ちえっ。
- C61： 3班と反対なんですけどね、下から4番目、あっ、3番目の幼稚園で死んだ人って何で一人なんですか？
- 8④： え〜と、それは調べてきませんでした。
- C全： はい。はい。は〜い。
- 8④： 〜 君。
- C62： うんとね。うんとね。あそこのね41年と42年のってあんでしょ。上の
- 8④： これ？
- C62： うん。そこのね、うんとね、うんと、えと、75件と書いてあるでしょ
- 8④： ここ？
- C62： うん。それなのにね、うんとね、うんと10名とか何名とか書いてこなかったのですか？
- 8④： それは書いてありませんでした。
- C全： は〜い。はい。
- 8④： 〜 君
- C63： え〜と、忘れちゃった。何だったっけ。
- C全： はい。はい。
- 8④： ちょっと待って
- C全： はい。はい。
- C64： あっ、だめ。
- C65： 男ぼっか指してるじゃん。
- C64： 年度別って何ですか？
- 8④： 年度別っていうのは、え〜と、えと、ここに昭和24年度って書いてあるでしょ、そのこと、え〜と、昭和42年度というそういう、そういうのが年度別です。
- C全： は〜い。はい。
小川君。
- C65： さっき、〜も言ったでしょ。幼稚園で死んだ人ってね。幼稚園でまだちっちゃい、ちっちゃい子だからあんまり注意してないんでしょ。自動車のことに。でもどうして少ないん

- ですか？
- 8④： それは調べてきませんでした。
- C全： は～い。は～い。はい。はい。
- C66： たまには当ててよ。
- C67： え～と、その他の通りと書いてあるでしょ。ここ、そこうんとね、どこの通りと、どこの通りですか？
- 8④： それは、それね、他のね、え～とかんはちとかそういう道路です。
- C68： は～い。は～い。(環八のことだよ)
- C69： 交通事故のこと調べてたんでしょ。だったらさ、一番向こうにある、下から3番目のね、幼稚園で死んだ人って書いてあるでしょ、幼稚園で死んだんなら関係ないんじゃないんですか？
- C70： だって、原因じゃん。
- C71： そうだよ。
- C69： でも、幼稚園で死んだんじゃん。
- C全： は～い。は～い。(ガヤガヤ)
- C72： ～ 昼の方が多たって書いてあるでしょ。どうして多いのですか？
- C73： ああ、言われた、ちくしょう。
- 8④： えっ、なあに。
- C74： あの下、下。
- C75： もっと下。
- C全： (ガヤガヤ)
- 8④： それは、ぼくが考えたものですけど、昼は、昼は、買い物なんかに行くひとがたくさんいるので、
- C76： 夕方の方がいるのに。
- 8④： だから、多いと思います。
- C全： はい。はい。はい。(ガヤガヤ)
- 8②： はるちゃん。
- C77： 夕方ね、～なんかに行くから、キネマ通りだから、蒲田の方ただけだね、キネマ通りって、細い道路ね、そこんとね、夕方、お母さんなんかさがさ、うんと、買い物に行くとき、小さい子がいっしょについていくでしょ、それで、お母さんがいっしょだから平気だと思って、飛び出したなりなんかして、そういうとき車にひかれる。そういうときあるんじゃないんですか。
- C全： はい。はい。
- C78： 原因ていうところね、あれ、交通事故の原因でしょ。原因なのに、お願い聞いていてちょうだいね。幼稚園で死んだ人って書いてあるでしょどうして死んだ人って書いてあるんですか？
- C79： 聞いたことある。
- C全： はい。はい。は～い。
- 8④： ～ 君。
- C80： こないだ、2班の発表したときさ～あ、斜め横断でグラフ作ったでしょう、そのときさ、二人よりもうちよっと多かったでしょ。ね、それなのにさ、うんと、8班もうんと、大森で調べてきたのに何で、うんと、斜め横断した人が少ないのですか？
- 8④： それは、斜め横断を、する人は、それは、調べてきませんでした。
- C81： は～い。
- 8④： ～君。
- C81： はい。昼は事故が多たって書いてあるでしょ。昼は事故が多たって。夜が事故が少ないんですよ。どうして夜が少ないんですか？ 夜と朝は

どうして少ないんですか？

8④： え〜と、それは調べてきませんでした。

C全： はい。はい。はい。はい。は〜い。

8⑧： 〜君。

C82： ここには書いてないんだけど、月・火・水・木・金・土のうちに、あつ、日も入れて、そのうちに、一週間に、何時が交通事故が多いか。

8④： それは、え〜と、調べてきませんでした。

C全： は〜い。はい。はい。

M18： あと一人で終わりにしなさい。

C全： はい。はい。はい。はい。優先。はい。はい。

C83： あのね、山本さんにつけたしなんですけどね、あのう、誰だったけ、えと〜、昼は、あのう、おつかい、小倉君が言ったんだけど、夜はね、夕方はね、昼はね、お母さん、お母さんなんかがさ、働きに行っているでしょ。それで、〜 これちがう。これちがう。

C全： は〜い。は〜い。は〜い。は〜い。

C84： こうそくどうろの事故って書いてあるでしょ。いろんな高速道路があるでしょ。そのなかで一番さ、遠いのはどの高速道路ですか。

8④： それは、え〜と、ぼくはたいいてい、え〜と、高速道路が一号線だと思います。

C全： は〜い。は〜い。

M19： はい。やめなさい。終わり。

C全： えっ。あ〜あ。だって、指してくれなかったよ。(ガヤガヤ)

M20： はい。ご苦労さん。

C全： (ガヤガヤ) そんなことでいちいちぎゃあぎゃあ騒ぐなよ。(ガヤガヤ)

M21： 疲れた？ 何してるの？

C85： 眠くなっちゃった。

M22： 眠くなった？ ちょっと立って。思い切り立ってみよう。

C全： あ〜あ

M23： はい、座って。

C86： 先生、頭が〜なのだ。

M24： 先生、叱らないから大丈夫だよ。

C86： なんて。

M25： 〜 いいから座りなさい。

C86： あっ、叱って見せてよ。

M26： はい、それでは、交通事故のお勉強ですから、交通事故の原因は、交通事故になるわけは、どうしてなるんだと思いますか。

C全： は〜い。はい。

M27： なぜ、交通事故が起きるのでしょうか。

C全： は〜い。はい。はい。は〜い。

M28： はい、後藤さん。

C87： 運転する人が酔っぱらうから。

M29： 運転する人が、

C88： 酔っぱらう。

M30： 酔っぱらってる。

C全： は〜い。

M31： 小野君。

C89： あ〜あ。

C 90: あのね、運転する人もね、歩く人もね、不注意、不注意だからじゃないんですか？

M32: 運転する人も歩く人も不注意だから。

C全: はい。はい。は～い。

M33: だいたいこれに含まれますか？

C全: はい。はい。は～い。

M34: はい、藤井さん。

C91: 先生、やさしくないか？

M35: いいじゃないか、やさしくたって。

M36: はい、藤井さん。

C92: お母さんとかね、お父さんがね、子どもをほったらかしたりするから。

M37: ほったらかしたりするから。

C全: はい。はい。は～い。言いたい、言いたい意見。

M38: はい。

C93: うんとね、信号無視したりね、左通行したりするから。

M39: ~さん、もう一度言い直してください。

C94: 左側通行をしたりするから、多いのじゃないですか。

M40: そうですか。

C93: うん。

M41: 左側通行をするから。

C全: はい。はい。はい。はい。

M42: はい、小倉君。

C94: 先生、~さん、座っていいの？

C95: 子どもの飛び出しが多いというでしょ。それからね、居眠り運転とかね、そういうふうにするとぶつかってね、それでね、交通事故は多いと思います。

C全: はい。は～い。

M43: はい、~君。

C96: あのさ、お母ちゃんと、子どものお母さんがいるでしょ。子どもの、お母さんがさ、3年生の子ども持つとすると、もう3年生だからさ、3年生だから道路一人で歩けると思っ
て、親が放すでしょ。そうしてね、交通事故にあう。

C全: はい。はい。

M44: そうすると、ちょっと待ってください。阿部君が言ったね、不注意による、車を運転する人とか、~君こちらを向いてどちらを向いてる。車を運転する人とか歩いている人の不注意によることが多い。そうですか
だいたい。

C全: は～い。

M45: はい、賛成の人、手をあげて。

C全: は～い。

M46: はい、手をおろしてください。

C97: なおしたら~ よくわかる。

M47: これはその前皆が、書いた交通事故をなくしたらどうしたらよいかというね、

C全: やめてよ。や~だ。やめなさいよね。や~だ。やめなさいよね。

M48: はい、これは飛び出すんですね。原因はとびだすなでしょ、危ない。雨の日はスピードをだすなですね。これもスピード運転ですね。これは飛び出すな車は急に止まれない。ど
っかで聞いたことがあるなあ。横断歩道を渡るときに右、左ちゃんと見

て渡ろう。これもちゃんと気をつけるということですね。これは、ほかのことですね。飛び出すな、車は急に止まらない。これは、道路で遊ばない。車は左、人は右。注意しよう～しようとか、飛び出しはやめようけがのもととか、というようなことですね。写真を見て分かりましょう。そうすると、はい、車を運転する人とか、人を運転する人、

C 98: えっ、人を運転する？

M 49: 歩いている人の、先生、あがっているんだ。歩いている人の不注意によることが多い。不注意で交通事故が起きる、それに賛成なわけですね。

C 全: は～い。

M 50: はい、じゃ大田区の地図をちょっと出してください。

C 全: (ガヤガヤ)

M 51: これからね、去年、大田区で、交通事故が起こった場所を見ていきます。

M 52: はい、こちらを見て、丸子橋、丸子橋ですよ。去年あったのはね、9回ありました。

C 99: ちょっと待って先生。

M 53: うん。大森第二小学校のあたり、ここらへん、これは16回ありました。それからこれは、この道路なんだっただけか、これ二つつながっている、

C 100: 環状7号線、

M 54: 環状7号線とこれ何だったけ、

C 全: 三田、ガヤガヤ、

M 55: 中原街道、この間、この交差点では、54回ありました。

C 101: 54回も。

M 56: それからね、ここに千鳥町という

ところがあります。今、工事してますね。何ていう道路ですか、これは道路。

C 全: 千鳥～

M 57: はい、ここでは16回です。

C 102: うそ、～ していいの。

M 58: ほら、こっちまで出てきていいですよ。池上通り、ここが30回です。

C 全: 環八、環八って どう～

M 59: それからこちらの大鳥居のほうは19回。

C 全: (ガヤガヤ)

M 60: そうするとね、皆ねえ、不注意による事故が多いって言ったでしょう。そうするとね、はい、こちら見て、これは、9回と54回どちらが多いですか。

C 全: 54回。

M 61: こちらが多いですね。そうするとこちらの方が不注意な人が多いのかな？ 注意をしない人が。

C 全: そう。そう。

M 62: 注意しない人が、ここは多いのかな？

C 全: そう。

M 63: だからきっと事故が起きるんだ。そう思う人？

C 全: は～い。

M 64: 反対意見。はい、じゃ、

C 103: どっちでもない。

M 65: どっちでもない人？ はい。

M 66: ここは、

- C104: 9回。
- M67: 9回、そう、すると、きつところへんの周りの人は、
- C全: 頭が～ ちがう、注意しないの、あんまり～
- C105: でも、
- M68: でも、はい、
- C全: でも、でも、でもね。
- C106: でもね、丸子橋というところね、～
- M69: ああ、そうか、ここらへん住んでいる人、関係ないということか。
- C107: 信号が多いから。
- M70: それ以外に交通事故の原因でないだろうか？
- M71: 不注意、不注意による事故が多い。不注意による事故だけだということですね。
- C108: 雨のときにスピードだすの。
- C109: 雨のときに～
- M72: それでは、ほかにも原因は考えられませんか？
- C110: 考えられない。
- M73: あるでしょ。班で話し合ってください。
- C全: (ガヤガヤ)
- M74: はい、話し合いやめて。
- C全: (ガヤガヤ)
- M75: はい、こちらを向いて。
- C全: (ガヤガヤ)
- M76: はい、こちらを向いてください。
- C全: (ガヤガヤ)
- C111: 気持ち悪い。
- M77: 気持ち悪い写真、どうしてこういう写真があるの？
- C全: 見えない・・・ガヤガヤ・・・
- M78: 見えます？
- C全: 見えない・・・
- C112: 先生、それ、どっから写したの？
- M79: 上の方からこうやって写したの。はい、ここだけ大きくしますよ。この部分だけ。その写真・・・
- C113: あっマリン・タワーがある。あっ東京タワーだ。
- M80: この写真の、はい、この人の通っているところだけ、事故の起こりやすそうな所だけ写してみましょう。写真ね、それがこれです。
- C全: え～っ。やった、やった。～すげえ、自動車へこんじゃってら。危ない、あの女の子危ない。
- M81: はい、これを見て何か思うことありますか。
- C全: は～い。
- M82: はい、座りなさい。
- C全: はい、はい。
- M83: はい、～さん。
- C114: あのね、人がね、車をね、囲んでいる。
- M84: 人が車を囲んでいる
- C115: ちがう、ちがう、
- C全: はい、は～い。

- M85: はい、～さん。 ないのかな。
- C116: あんなところで止まっちゃうのが いけないんだよ。 C全: 囲まれちゃってるから、囲まれちゃってる。は～い。はい。
- C117: 女の子ね、危ない。 M93: はい、市川君。
- M86: ～! 奥島さんの言ったこと言ってごらん下さい。 C124: 前に誰かがいるから～
- C118: 聞いてませんでした。 C125: むずかしいなあ～
- M87: 立ち下さい。はい、奥島さん、もう一度言いなおして下さい。 M94: これは、何だろう?
- C119: 車の前にいる女の子が、危ないと思う。 C全: 自動車
- M88: 車の前にいる女の子が、危ないと思う。はい、座ってください。 M95: ～ 写真。
- C120: 人がね、車をね、遠ざけてね、ちゃんとそこにね、横断歩道があるのに横断歩道があってもね、人は車を遠のけてね、～ C126: やだよ。
- M89: 横断歩道が、あるのに、何ですか? M96: 見にくいかもしれないけどね。
- C121: 人はね、車をね、遠のけておく。 C127: あっ、わかった。
- この人、これ危ないですね。この人が、どうしてこれは、横断歩道の上を歩かないのですか。 M96: こちらの方からずっとここまで曲がってるの何ですか。ここまで。
- C全: は～い。は～い。は～い。 C全: 人間。車。バス。
- M90: どうしてですか。はい、～さん。 M97: バスと、この上の所ここ、
- C122: 車がね、横断歩道のとこに止まっているから。 C全: 車、自家用車。
- M91: 車が横断歩道のとこに止まっているからねえ。横断歩道の上に車が止まっていますねえ。どうして、この車は横断歩道の上に止まっているのですか。 M98: 車は、これ皆見えないから、先生言うね。
- C123: あの女の子が危ないから。 C128: あっ、わかった。
- M92: 車が止まっているから、この女の子危ないんでしょ。どうしてこの車は、どうしてこの車はここから動か M99: 車がつながっているんですね。
- C130: つながっているから、つながっているからねえ、自家用車が止めてあるんじゃないの。 C129: だからだから、はい。は～い。
- C131: 違う、違う。 M100: はい、～さん。
- C130: その車に乗っている人はさ、置くところなくなっちゃったんじゃないの。

- M101: わざと止めてあるということですか？ わざと止めてあるということですね。
- C全: あんなところに止めたら通れないよ。人が乗ってるよ、だって
- M102: はい、おしゃべりやめて。
- C132: 前の方に車があるから動けないんじゃないのか。
- M103: 前の方に車があるから、前の方に車があるから動けないかも知れないね。
- C133: は〜い。
- M104: はい、ちょっと待ってね。これでも交通事故が起こるのは、人が不注意だけかな。
- C134: 違う。
- M105: もう一つ見せるのがあります。
- C135: 皆が注意しないから。
- M106: はい、人が注意しないから、だけだと思う人。人の不注意だけだと思う人。
- C全: 違う。違います。
- M107: 他にも原因があると思う人。
- C全: はい。は〜い。
- C全: だって、ぼくの見解はちゃんとあつとるもん。〜 ガヤガヤ〜 先生、見えないよ。
- M108: はい、見えるようにします。
- C全: (ガヤガヤ)
- M109: これ見えるかな。
- C全: 見える。見える。
- M110: 宮前通り、なあに。
- C全: 見えないよ。書いてある。頭がじゃま。〜ガヤガヤ〜
- M111: 見える。
- C全: (ガヤガヤ)
- M112: 〜さん、見えますか。
- C全: 見える。見える。
- M113: 蒲田じゃない。これは何ですか
- C全: (ガヤガヤ)〜バス〜
- M114: 人が歩く所はどこですか。
- C全: 停留所。あんた、見えないよ。
- M115: 人が歩く所はどこですか。
- C全: ここ。〜見えないよ。〜バスの横〜だって見ているのに、〜行かれないよ。
- M116: はい、おしゃべりをやめ。はい。
- C136: でも、そうやっても見えるもん。
- M117: はい。
- C137: でも、いいでしょ。
- M118: もう少し、大四小の所を見せようか。
- C138: 大四、これ。
- M119: これは、バスですね。
- C全: 見えない。
- M120: 見えないの、はい。これは、バスが向こうへ行ったところ。道路いっぱい走っているのはバスですね。
- C全: はい。あたり〜 いやだよ。
- M121: 道路いっぱい走っているのはバスです。
- C139: それ、夕方でしょ。

M122: そう、かな？ はい、それじゃあね、人が注意しないということの、運転している人が注意しないということに、他にどんなことが考えられるかなあ。交通事故が。

C140: はい。

M123: 交通事故、どういうことが考えられるかな。

C140: はい。

M124: はい、～君。

C140: うんとね、うんと、バスなんか急ぐでしょ、

M125: はい。

C140: うんと、そういうときに、道が狭いから、じゃないかなあ。

M126: 道が狭いから。

C141: は～い。

M127: 道が狭いということ。

C141: それに似てる。

M128: はい、他に。はい、～君。

C141: うんとね、それとね、交通事故、後はね、車が多いからだと思う。

M129: 車が多いから。車が増えてる。多いからだと思う。他にありますか。

C全: は～い。は～い。

M130: はい、～君。

C142: あのさ、細いさ、細い道があるでしょ、そこから、ここらへんぐらいの、

M131: うん。

C142: そいでさあ、あれ、できるだけさ、乗用車とかそういうのが、仕事あるでしょ、それでさ、できるだけ近道

さ、しようと思ってさ、どんな道でも走るでしょ。ね、狭いところでさちっちゃい子が遊んでいるでしょ、狭いところ、通り、

C143: 車が入ってこなければ、

C142: そいでね、車がね、混んでるでしょ、そいで横断歩道に～

M132: なるほどね。

C144: はい。

M133: はい、～さん。

C全: 何やってんだよ。ガヤガヤ

C144: 今さ、えと、会社やなんかね、そういうところへ、速く荷物を運ぶ、そういう頭があるからです。そういう考え方があるからです。

M134: うん。

C144: 車でね、どんどん～ なるべく近道をして、速く行こうとしている。

C全: は～い。はい。

M135: なるほどね。

C全: は～い。はい。はい。はい。

M136: ごめんね、ほんとは、山本さんの言った意見すごくいいから、もっと討論したいんだけどねえ、どうしてそんなに速く運転しなければならないのか。

M137: ～君もそうだね。どうして、裏の道まで行かなきゃならないのか。討論かけなきゃねえ。

C145: ううんう。

M138: それが、できないんだ。これからねえ、今まで言った、皆が言ったことがね、あってるのかどうなのかねえ、表を見てねえ、考えてみましょう。

- C全： は〜い。先生が決めてよ。
- M139: う〜ん。そりゃ、先生が決めるよ。
- C全： ガヤガヤ〜 折れ線グラフだ。変わり方が、〜 先生がそれいちいち書くの。
- M140: 10分ぐらいでできたよね。
- C全： えっ、え〜っ。
- M141: だから、あんまりきれいじゃないけどね。はい、これはね、見えるかな？
- C全： うん。見えない。
- M142: はい、見える？
- C146: 先生がいるから
- M143: はい、これはね、東京都の人口自動車数、交通事故の移り変わりですね。昭和41年の交通年鑑というのがあります。それにこんな写真があつた、ときたま載っているんです。これは自動車の数の増え方です。これは人間の人口の増え方です。東京都のね、これは、けがをした人のグラフですね。これは、死んだ人のグラフですね。だいたい同じようなことを示していますか？
- C147: 死亡がどんどん上ってるんじゃない。
- M144: うん。皆の言ったのは、あつたかな？
- C148: 上がったたり下がったりしている。
- C149: うん。
- M145: 自動車の数が、増えたって誰か言ったねえ。増えたからだとか、道路が狭くなったからだとか。はい。
- C150: 人間の多く、
- M146: それにしたがつて、けがをした人死んだ人も、だんだん増えているの
- も分かりますね。
- C全： はい。〜 絶対間違っているよ。
- M147: それでね、こんなにけがをした人死んだ人が増えちゃったら大変でしょ。これが、いっしょになって。
- C151: うん、だから車の〜にね、
- M148: だからね、どうしたらいいと思いますか？
- C全： は〜い。
- M149: はい。山本さん。
- C149: 車の数を減らしたらいい。
- M150: 車の数を減らしたらいいと思う。
- C全： はい。はい。はい。
- M151: 他に。
- C全： はい。はい。はい。
- M152: はい、小倉君。
- C150: う〜んとね、車の、車をさ、車をね、その警笛をね、人がね、どくような警笛にすればよいと思います。
- M153: 人がどくような警笛にしたらいい
- C全： は〜い。
- M154: はい、〜君。
- C151: 自動車ばっか乗らないで、船も乗ったらいい。
- M155: 船に乗ったらいい。
- C152: は〜い。はい。はい。はい。
- M156: はい、〜 はい、川口君。
- C153: 歩道橋や信号をたくさん作る。
- M156: 歩道橋や信号をたくさん作ったらよいと思う。

M173: こっからこっち側みせますね。はいこれです。

C全: わあ、すごい。

M174: 一番天井にあるの何ですか。

C全: 高速道路。

C162: わからない、どうせ。

M175: これでは、これですね。

C全: はい。

C163: いいこと考えた。

M176: はい、では、いいこと考えた。はい、交通事故をなくすにはどうしたらいいのかについては、

C全: はい。

M177: 今度の時間にお勉強します。

C全: なんだ、～ あっ、わかった、わかった、横断歩道を歩道橋にするって言うの言えない、

表でできなかつたら、意味が
ないからやめたさい。
八幡んぞうだんしほさい。

F 昭和三十九年 四十二年度普通事故比較表

(もつと大きく) (もつと大きくいつて下ヤニ) の声

「この表で比較の漢字読めず

(自分で書いた字よめぬのかよ)

(八幡ん助魚してきたんですか)

「発表者交代、読めないところをぬかして続ける」

O 筋内ありませんか

(はーい)

F 須山君

S 上から三番目のね。その下、なんですか

O 二れはね

T どうして昭和四十一年より、昭和四十二年の方が多いの

ですか。

O ぞれはしらべてきませんでした。

K 何年にしらべたんですか

O この表にかいてあります。

H 駐車いはんした人、20人、どうして多いのですか。

O えーとね、ぼくはこう思います。ちゅうしはんとか

いてある所が少いから、ちゅう車いはんが多いのだと
思います。

社会科授業記録

「京浜教育」才一園学習会

大森才四小学校 324 向山洋一

169
2/4

教師の活動・発言

児童の活動・発言

Time

①あそこに、写真がはってあるでしやう。見た人。

②あれは何の写真ですか

③そう、交通事故の写真ですわ。

今日は交通事故の事について勉強します。
今日は八ぼんの発表でしたわ。
はい八ぼん前に出て下さい。
はい静かにして下さい。

S 交通事故の写真です。

(はい、はい)

(かつこいい。すこいい。の声)

M.O.
F.A.

これから八ぼんで調べたことを発表します。
「四人前に出て、交互に表をよむ」

O MA

1. 交通事故の原因
2. 道路別交通事故

の交通事故で死んだのに、どうしてようちえんで死んだつてなってるんですか。
(前に出た) 備いてないのか)

S: ニはんも大森で調べてきて、斜め横断が多かったのに...
どうして、斜め横断をする人が多いんですか。

A: ぞれは、斜め横断をする人は...、しうべきません。
N: 月火水木金土日のうち、一周間にいつが交通事故が多い
のぞれはしらへてきませんでした。

H: 負、お母さん、なんかゆきにいつているんです。...
これちかう、これちかう。

H: 高速道路の事故つて書いてあるでしょう。いろんな高速
道路があるでしょう。
O: ほくは、たいてい高速道路一号线だと思ひます。

あーあ。つかれた。

先生あとで、おこられるよ。(だいじょうぶ)

F: (はい) 情報無視するからです。

はい、それでおわり。
つかれた。たつて、おもいつ
ぎりありと、いつてせのびしよ
う。

④ はい、それでは、交通事故の
原因は、なぜ交通事故がおきると思ひ
ますか。
後藤さん

I 年度別表つてあるでしょう。それなんで書いてこなかったんですか。それはいりませんでした。

J 年度別つて向んですか。年度別つてのは、ここに昭和四十二年度つて書いてあるでしょう。そういうのが年度別です。

K ようちえんつちっちゃいんでしよう。ちゅういしていなんでしよう。それ。どうして死んだんですか。のしらべてきませんでした。

L 他の通つりつて、どこの通つりですか。環八とか……そういう通つりです。

M 交通事故のしらべてきたんでしよう。

N ようちえんで死んだつて関係ないんじゃないですか。

（「だつて原因じゃないか」
「かんけいがない」）

O どのうちの方、昼が多つてかいてあるでしょう。

P 昼が多つてかいてあるんですけど、昼は買い物なんかに行く人が多くさんいるでしょう。だから多いと思います。

Y 夕方ね、かまたの方、きぬき通り、細いところね。

お母さんがいさよかつかいていくでしょう。お母さんがいさよかつかいていくでしょう。事故に陥るんじゃないですか。

丸子橋

大森才二

中瀬環七

千島

池上通り

大島居

193016 4169

不注意による交通事故が多い
んてしよ。9回と外曲はどち
らが多い。所はどこの人々が
事故が多い。不注意の人か
不注意だと思ふの
こころへんは、不注意の人が
多いんだね。

② こころに住んでいる人に関係
ないというわけですね。
外にも原因は考えられません
か、グループで話しあつてこ
らん

③ こころを向いてごらん。
気持ち悪くなんかないよ。
渋谷立体交差の写真ね。
二小を見て何か思うことあ
りますか？

④ どうしてあふれるんですか。
この人はどうして横断歩道

(外回 4回です)

(そう。はい。)

Y 「はい。」「先生」の声
「丸子橋のところね、そこで事故を起すのは、こころ
んからきた車もそこを通るんだから、どちらでもない。」

「グループ討議」

(うう、気持ち悪い)

(うわつ、すごい)

H₂ 人が車をかこんでる。

Y₂ 車の前には女のまがあげた
人が車を直さげている。横断歩道があるのに人は車を直
のけている。

大体、これに含まれますか

⑤ ぞうすると運転する人と歩
いとく人の不注意による車が
多いというわけ？ ぞうですか大体

これは二の間交通事故をなく
す為を書いてもらったもので
すね。

ポスターの標語

*とび出すな *雨の日はず

スピードを出すな

ぞうすると、車を運転する人

や、歩いてる人の不注意に

よつて交通事故が起るといつ

事に警戒なわけですな。

④ では地図を出して、

去年大田区で交通事故の起
った場所を書入ていきますね。

NO 左側通行したりするからではないですか。
おとうさんも、おかあさんも子どもをほったらかしてお

くから。
AR 運転する人も、歩く人も不注意だからじゃないんですか。

(はい。い。)

OK 子どもはとび出しが多いというでしょう。それからね、
いねありうんとカカね。ぞういうふうにするとうちに

つかつて、それで交通事故が多いと思えます。

KR 子どものおかあさんがいるでしょう。そのお母さんが、
もし三年生の子どものもつていておるとするでしょ。

もう三年生だからひとりで歩けると思つてね。
親がはなすと交通事故になる。

(はいはい)「大田区」

(やめてー。はぶかしい。)

(はいはい)「全通」

を歩かたないのですか。

⑩ どうしてこの車はどかないのかね。もう一度さっきの写真を……
(バスが走っている。)

⑪ 不注意だけかな？ もう一回見せます。
人の不注意だけだと思う人。
スライド (バス)

⑫ 道路いっぱい走っているのはバスですかね。
人の不注意以外に交通事故、こういう事故考えられるかな。

⑬ どうして裏の道までいかなくないか。討論したいんだけど、今日ほでまません。

S車が横断歩道の上にいるから。

前に車がいるからよけている。動かない。

T₁つながっているから。車をよく所がないからじゃない。T₂前の方に車があるから動けないんじゃないですか。

(はくい) 80%

(道路いっぱい)

K₁バスなんか急ぐでしょう。道がせまいからじゃないんですか。

S₁車が多いから。

K₂細い道があるでしょう。できるだけ近道しようと思っ

て、せまい道は、子どもが通っているから、さけるね、車

Y₁がくるでしょう。そいで交通事故が起る。

Y₂今ね、早く荷物を持って、こうとすいう願があるから、考えがあるから、近道をして早くいこうとする。

5下
三三〇
五〇三
九
38

と云ふ。其のこの説を
研究するに及ぶたためであつた。

その当時 大正中頃なるなり 視察覚書

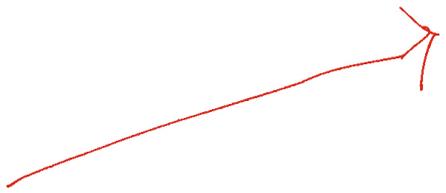
と云ふべきものありとあるの語を
ついでに

研究と云ふこと

専らは中不図研究令の
際と云ふこと

二月十一日(木)に
研究報告と云ふことあり

その時の指針を
治と云ふことあり



明治図書原稿用紙
20 x 20

今 読みをみると いろいろとたどるが目に
つき。

まず、授業の途中か 教師の指導型となつ
ている。人内の不注意が原因で交通事故が起す
ゆえに面白い。施設の不十分も原因がよい
のなと、この方向に指導しようとしてる。つ
まり 資料の準備の方向が一方向に向か
る。

中二に、子供達^{たす}の「はーい」という声かけ
にかのよ。これは、当然物語をつまらさるる。
静かに椅子とせよのうまである。

中三に「なぜ、交通事故が起きるとい
うの」というと、さういふものがあることを仰
ぐことである。

「静かに」という「なぜ」という疑問の
さへ、まてあつた。さうであつたから、さうい
うであつたか」といふべきであらう。

中四に 結果の発表が呼びである。計画通
り進行して、その結果が、アッパリーとあつてい
る。

151

教育グループいろは

数々の欠点にもあつたが、一つだけ
すばらしい点がある。

人内の不注意によつて交通事故が起すのたし
という^{たす}結果の発表が、対決してることであ
る。施設や整備も大なることあるから、さう
いふことであつて、さういふことである。

授業をどうして

だから、一人の熱気が感じらるる。

確かに、これは、強引な授業であるが、^{たす}理
議の思考で、資料、発表の作りかた、内容、
やまといふ強い意志が、御いっていることであ
る。

この授業は、まねたりに、^{たす}授業の骨格があつ
て、一つの心、改行、その評価である。



教育グループいろは

研究授業であるから分析を加えたいから
 する。私の授業は優を型押し。発言頻に番
 号をつけた。そして。生徒の発言とやりと
 りの割合をA、交通事情の異なる ~~状況~~ ^{状況} B、
 分とB、資料によって述べた。このことし
 て。A・B、この関係について論じた。
 今読み直してみると、言葉がこたえられて
 て、自分自身よく分らない。しかし、おち
 ち、本質的立場から ~~見れば~~ ^{見れば} 下やおうと察せ
 いたことお分る。

私の授業の

どの時の又 ~~また~~ ^{また} どの ~~どの~~ ^{どの} ためか、

5 スライド・写真を使つての学習実践例 (3年 社会) 43. 12. 11
 単元 「安全なくらし」 スライド題名 L O O O O O O O 指導者 向山洋一

1. 学習計画のあらまし

- (1) 単元名 「安全なくらし」
 (2) 実施学年 3年(向山学級)
 (3) 小単元計画 ① おそろしい交通事故 1時間
 ② 交通事故は何故おきるのだろう 1時間(本時)
 ③ どうしたら交通事故はふせげるか 1時間
 (4) 本時の目標 児童が現にもっている交通事故に対する見方をさぐり、その交通事故観に対して、児童自身に、自分の考えに矛盾があることを感じる事態に追いこみ、それを契機として思考を発展させ、交通事故発生の原因が個人的な不注意ばかりではなく、社会的原因による事も多いことに気づかせていく。

(5) 学習展開

段階	分節のねらい	学習活動と学習内容	資料名	資料利用上の留意点
	本時の学習目標を確認させる。		①大森管内交通事故写真	
展開	交通事故の概要を把握させる。	交通事故にからまる諸問題について考え発表する(グループ)	②交通事故の原因 ③道路別発生数 ④年度別比較 児童作	
	交通事故の原因が個人的不注意にばかりなく、社会的原因も多い事を明確にさせる。	交通事故はなぜおきるのかを考え、話しあう。 ・個人的不注意 ・社会的原因	⑥交通事故をなくすための子どものポスター(前時作) ④写真(渋谷駅前4枚) ⑦スライド(三原通り等) ③主要地点交通事故表 ②自動車、人口、事故の年度別増加グラフ	・交通事故の原因が個人的不注意によるとする点を確認。 ・社会的原因もある事を着目させる。
	交通事故をなくす方向を意識させる。	事故をなくす(へらす)方法について考え、話しあう。	⑩写真(歩道橋、高速道路、ガードレール) ⑪スライド(環八等)	

→ 19 24
 ← 96
 37 考察と一見解

□ (1) 最近の教育界の注目すべき動向の一つは、哲学、心理学に基礎を置いた認識論への接近である。それは教育現場からみ出される教育研究がきびしい科学性を要求され、特に子どもの認識過程、思考過程の解明に新たな光を投げかけなくてはならない証拠だと考えられる。

□ (2) 今日、視聴覚教育を考える場合でも、その基礎たる認識論として考えられている「感性的認識から理性的認識へ」（波多野完治）という考え方が関連されねばなるまい。この認識過程が成立するための教育的諸条件は何なのか、視聴覚的教育方法はどのような役割を果たすのかが追求されるべき課題である。

□ (3) グループ発表という授業様式の上でこの授業と単元全体を通して次のような結果が得られた。

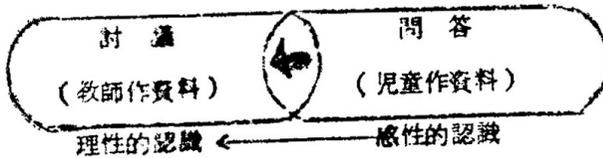
□ □ イ．発言児童数 21 名～29 名（学級児童数 32 名）

□ □ ロ．発言内容（当然思考方法も含む）は図表を離れたものから図表に関連したものへ、そして図表を分析する方向へと進んだ。

例 ①その表の横にある数は何ですか。→②子ども勉強室の係りの人が休んだらどうするんですか。→③交通事故はどうして41年より42年の方が多いんですか。

□ □ ハ．子どもの発表は感性的認識の段階で止まり、理性的認識への発展は教師が果すべきと考えられる。

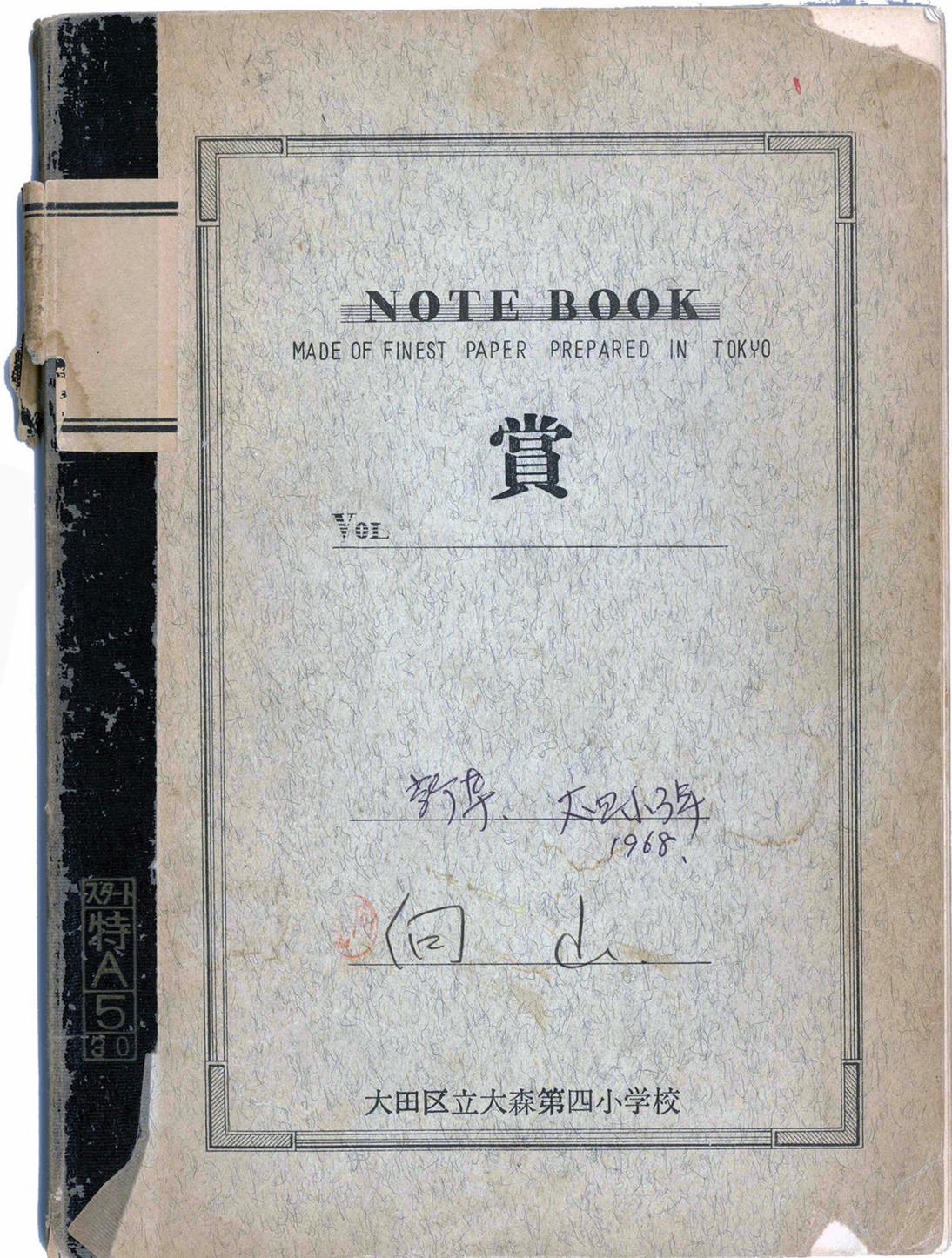
ニ．認識過程に対する資料のあり方構造図（グループ発表様式で）



□ (4) この授業の中に於ても、構造図右側の部分の A、構造図左側にある B、C の部分がはっきり現われていると考える。特に A の中での 3.25.26 の発言等は主題にせまったものと考えることができ、C における教師の資料の提示は 96, 98, 103, 107 という認識の転換をもたらす役割をしていると考えられる。

□ (5) 視聴覚的教育方法は教師が主体性を持って、授業の流れの中に明確に位置づけるなら認識転換の重要な役割を果たすであろう。

156



ヤジキ

1. 社会科のテーマ設定.

2. 話し合い活動のため.

3. 授業. (教材研究)

◎表

◎グラフ

★ 交通事故発生graph.

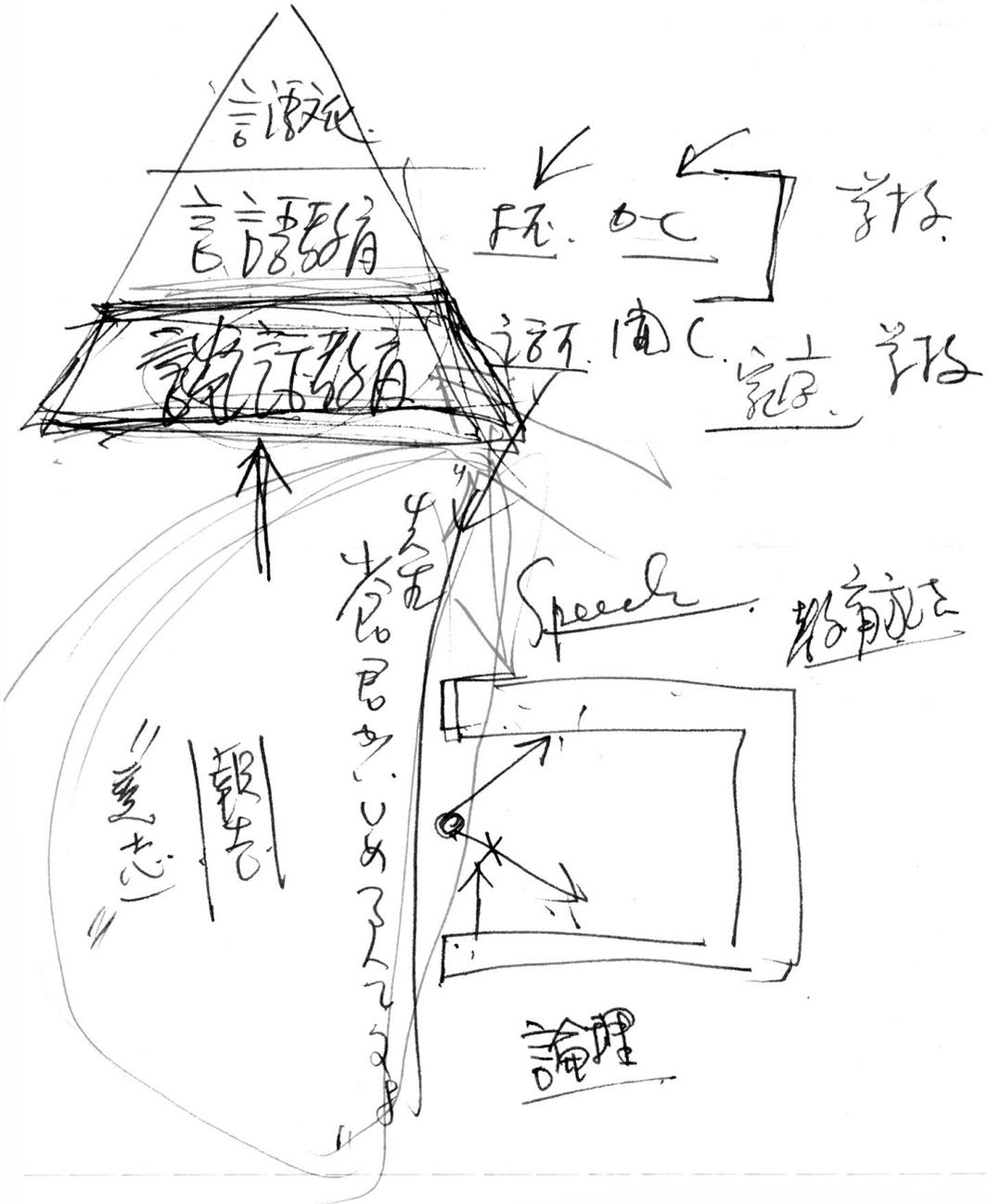
★ 写真

★ 自動車台数増加の
graph.

歩道橋.
カードレベル.
交通量を一月で見ると
ラッシュ.
信号

課題設定の理由
社会科学

1968



予備調査. 12月5日. 欠2名.

交通事故.

1. 原因

2. 交通事故にあったこと.

3. なくす.

4. どこで起こるか.

やること

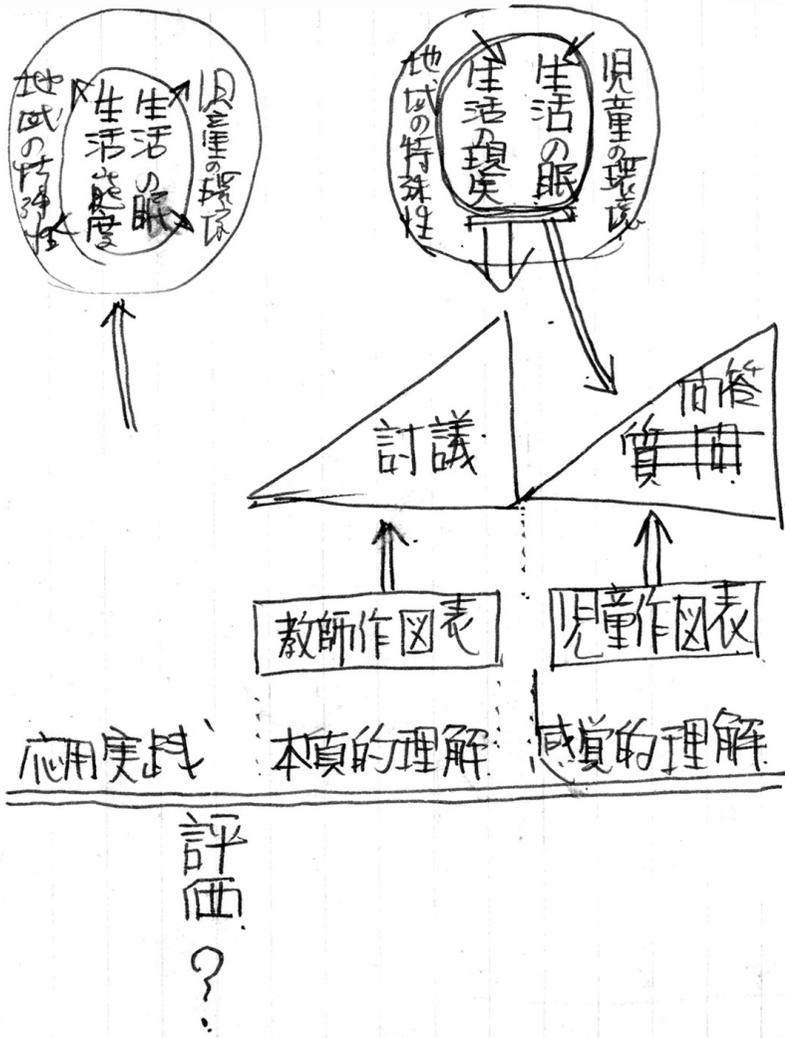
どうしてこうつう事故が起きるのかわか。

○ めめ。

写真、スライド、統計。

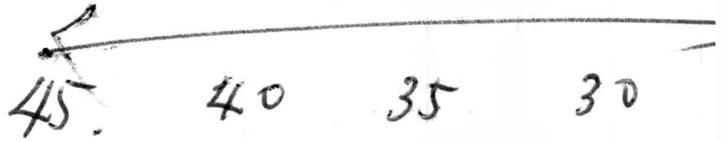
どうしたらいいだろうか！

- 立体交差
 - 高速道路
 - 新しい道路
 - 拡張
-
- 味道路
 -
 -
 -
- 信号



条件

交通事故をなくする為には
どうしたらよいか。

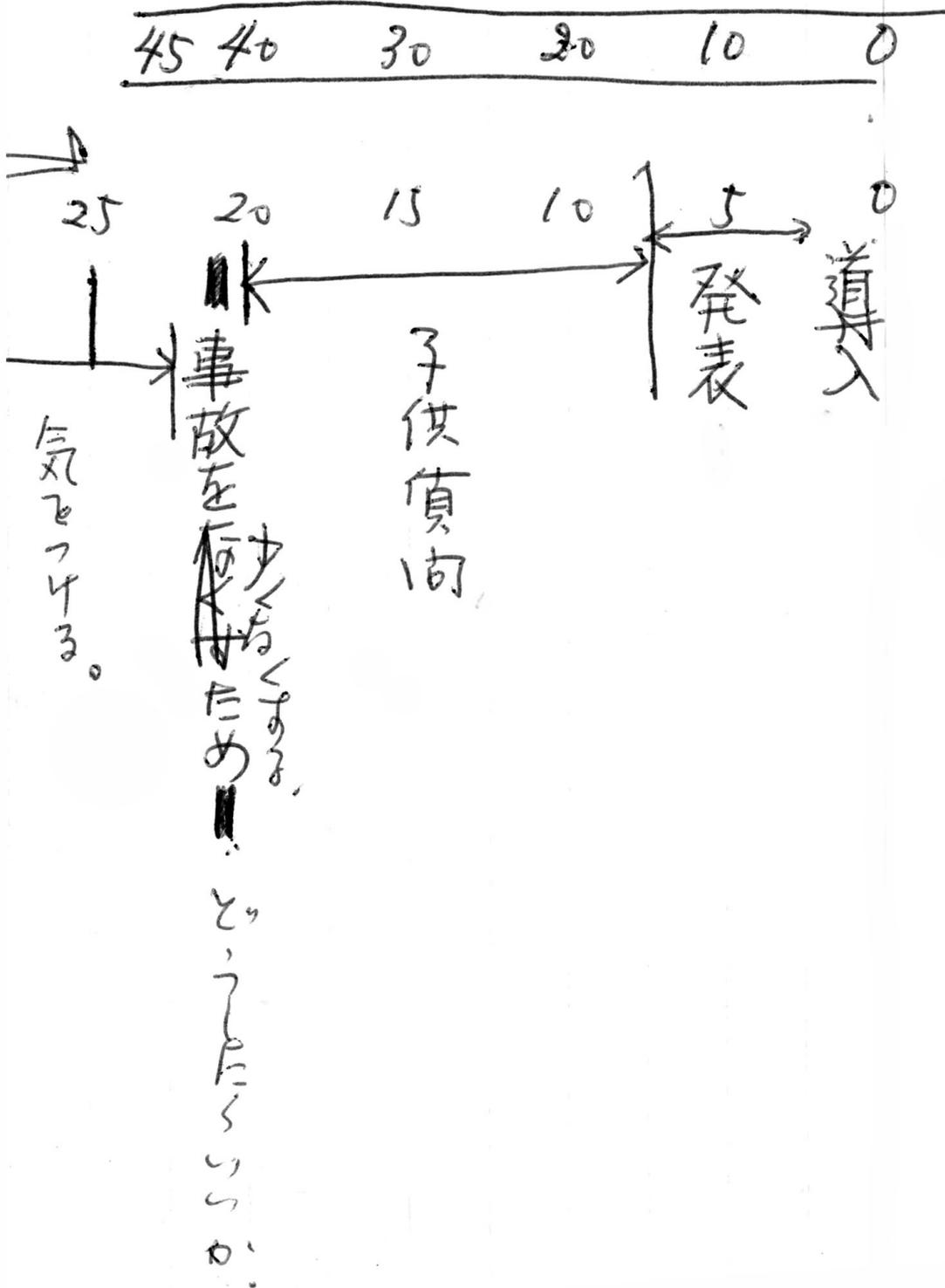


定着

写真

使用可能な
しちんり

事故の増加
車の増加
事故の発生場所



新卒授業から時代に即した「ザ・向山型社会」だった

桜木 泰自

1. 私の「解説」の観点

本稿では次の点に言及する。

- (1) 授業のあった 1968 年の時代背景
- (2) 実践校の地理的背景
- (3) 本実践と研究テーマの関連
- (4) 新卒授業から色濃く出ている「向山型社会の展開」
- (5) 交通事故に関する私の実践

2. 社会問題となった「交通戦争」

本実践は向山洋一氏が大学を卒業し、新卒教師として着任した年に行われた。1968 年の 12 月、3 年生への授業である。戦後復興の象徴である「東京オリンピック」が行われた 4 年後、高度経済成長期の後半にあたる。前年に所得倍増計画が達成され、この年には日本の国民総生産（GNP）が、同じく敗戦国の西ドイツを抜いた。アメリカに次ぐ世界第 2 位の経済大国となっていた。

戦後の日本における自動車の普及とともに、1955 年頃から交通事故による死亡者数は急激に増えた。ピークである 1970 年の交通事故死亡者数は、16,765 人であった。ちなみに、当時よりも総人口も多く、自動車の総台数もはるかに多い 2024 年の交通事故死亡者数は 2663 人である。

向山氏の本実践があった 1968 年は、まさに「第一次交通戦争」と呼ばれ、社会問題になっていたのである。

私は、1971 年に小学校に入学しているが、1・2 年時に通った当時の私の学校（埼

玉県内）には広大な校庭の片隅に「交通公園」が設置されていた。交通ルールを体験的に学ぶ場である。また、スタントマンが車にはね飛ばされる実演つきの「交通安全教室」が全校児童対象に校庭で行われたことを、今でもしっかりと私は記憶している。国を挙げての「交通事故・犠牲者減少」の取り組みが行われていたのだ。

3. 羽田空港に近い大四小

授業の行われた大田区立大森第四小学校は、羽田空港に近い、東京都の南東部の海岸地帯にある。東京と横浜そして東海方面を結ぶ現在の国道 15 号（第一京浜）及び国道 1 号（第二京浜）の海寄り（東側）に位置する。有名な「大森海苔」の生産は、水質悪化を要因に 1962 年で終わっているが、現在でも海苔問屋は数多くある。トラック輸送が増えてきた時代の車両が行き交う場所にあった。大田区もまた前述のように「交通戦争」の舞台であったのだ。

4. 視聴覚教具の活用と社会科授業

校内社会科部会としての研究授業であり、主題（仮）として次のようにある。

「社会科学習における話しあい活動を効果的にするための視聴覚的教育研究の方法」「統計図表と写真スライドが話し合い活動に与える影響について」

当時は「視聴覚教育」と言った。今でいう「情報教育(ICT活用教育)」である。テレビ、16mm映写機、スライド(写真)、OHPが当時の「最先端視聴覚機器」であった。

1987年初任の私にとっても懐かしい機器である。なお、「統計図表」「ポスター」といった資料も広義の「視聴覚教材」として捉えていたようである。

5. 初任から「ザ・向山型社会」

～概念崩しと討論の授業～

本時の目標は、以下の通りである。

児童が現にもっている交通事故に対する見方をさぐり、その交通事故観に対して、児童自身に、自分の考えに矛盾があることを感じる事態に追いこみ、それを契機として思考を発展させ、交通事故発生の原因が個人的な不注意ばかりではなく、社会的原因による事も多いことに気づかせていく。

実に独創的な分かりやすい目標である。指導書を写しては書けない文章である。

私はここから「向山型社会」を感じる。「青森のりんご」や「ペリー来航」の授業に通じる「既存概念崩し」の授業である。「人の不注意によって交通事故が起こる」を「りんごの生産に気候風土があう」と置き換えてみると分かる。人の営みは単純なものではない。

子どもたちに「気づかせていく」ために、社会科の授業として各種資料を提示している。そこで、見方が変わる。このあたりがペリー来航の授業と重なる。

また、話し合いを討論にもっていこうとする授業であり、その点もまさに向山型である。

この貴重な授業実践資料を、向山氏の他の実践と重ねて検討すると、学びが深まると思う。

6. 交通事故死者数の変化と社会の変化

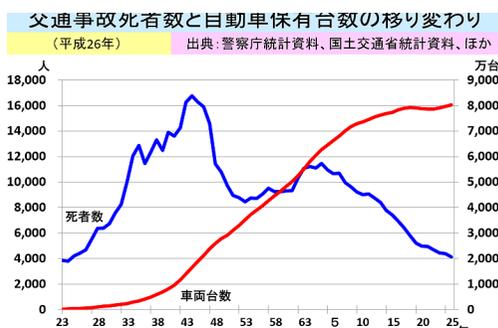
最後に私の拙い実践の概略を紹介する。社会科グラフ資料の読み取りの実践として、4・5年生に実践したことがある。

戦後の年間交通事故死者数の変化から、社会背景と交通事故犠牲者減少対策の歴史を考えるものだ。

先の「第一次交通戦争」は、主に歩行者の犠牲が多かった。そこで、特に子どもへの交通安全教育が強化された。また、歩道橋・ガードレール等が整備された。

私が運転免許をとった昭和50年代末頃は、「第二次交通戦争」と呼ばれた。ここでは、特に若者の運転時の犠牲が多くなった。そこで、「シートベルト義務化の罰則化」等、運転時の法令が改正された。

近年の犠牲者数減少には、自動車の進化が大いに貢献している。この点は、5年生「自動車工業」でも「人と環境にやさしい自動車」等で扱われている。





12月特典 No.25 | 2025年12月

向山洋一 教育資料

1968.12.11 「交通事故の授業」

新卒・向山洋一の研究授業

特典音声

<https://vimeo.com/1125779556/e869fae295>



発行日 2025年12月5日

発行所 向山洋一教育技術研究所

所在地 〒142-0064 東京都品川区旗の台2丁目4番12号



谷和樹の教育新宝島

<https://shintakarajima.jp>



向山洋一公式サイト

<https://mukoyamayoichi.com>

このPDFは、プリンタの「冊子印刷」を選択すると冊子になります。
他人への譲渡および個人研究以外の目的で使用することを禁じます。